

CR (絶滅危惧 I A 類)

食肉目 イタチ科

ラッコ

Enhydra lutris (Linnaeus, 1758)

英 名: Sea otter

カテゴリー判定基準: D

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
R	DD	CR

北太平洋の北海道東部沿岸からカリフォルニア沿岸に分布。イタチ科最大の海生哺乳類で、沿岸の浅海域に生息する。1990年代以降、北海道沿岸の目撃例が増加した。現在、北海道東部沿岸から襟裳岬にかけて数頭が定着し、季節的来遊個体を含めて10頭前後が生息していると考えられる。隣接する北方四島からの分散個体が来遊し、再定着の過程にあると考えられるが、定置網への羅網等の阻害要因により、安定して存続できる状況にはない。

The sea otter is distributed over the coastal areas of the North Pacific Ocean from the eastern part of Hokkaido to California. Since the 1990s, recorded sightings have increased on the eastern part of the Hokkaido coast. From Cape Erimo to the East Hokkaido coast, it is estimated that several sea otters are resident and around ten of them are inhabitants including seasonal visitors. From incidental catch by fishing nets, it is difficult for the sea otter population around Hokkaido to stabilize.

基礎情報

■**形態** イタチ科で最大。毛色は薄茶色から褐色、黒色に近いものまで変異がある。体は体温維持と防水のための密生した綿毛で覆われている。後肢は大きなヒレ状になり、海の生活に適応している。尾は平らな形をしており、体の割に短い。全長はオス126～145cm、メス107～140cm。体重はオス21.8～44.9kg、メス14.5～32.7kg。

■**分布域** 北アメリカ西海岸のカリフォルニア沿岸、カナダからアラスカ沿岸、アリューシャン列島、カムチャツカ半島南東部沿岸、千島列島、北方四島北海道東部沿岸及び襟裳岬周辺に分布。

■**生息環境** 水深25～40m以内の浅い沿岸域に生息。北海道東部では海底が岩場の沿岸域に見られるほか、波の静かな岩礁に上陸することがある。

■**生活史** 生活のほとんどを海で過ごすが陸上

に上がって休むこともある。オスとメスは通常異なる集団で生活し、繁殖に関与するオスはメスの分布域内に縄張りを形成する。オスの性成熟は5～6才で、メスの最初の発情は4～5才。出産は陸上あるいは水中で、一年を通して行われる。通常は1回の出産に1頭、まれに2頭の仔を産む。海底の貝類や甲殻類、ウニなどの無脊椎動物をおもな餌とし、これらが不足すると魚類も食べる。成獣では1日に体重の20～33%もの餌を摂るが、これは皮下脂肪が乏しく体温維持のために高カロリーの餌を必要とするためである。海面に仰向けになって浮き、胸の上に抱いた石で貝やウニを割って採食する。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 1990年代半ば以降に確認された分布域として、北海道のえりも町襟裳岬、釧路市釧路川河口、浜中町沿岸、厚岸町大黒島、根室市落石岬・モユルリ島周辺・納沙布岬、別海町尾岱沼、標津町沿岸、羅臼町沿岸、斜里町ウトロ沿岸で観察記録あるいは漁網での混獲記録がある。

■**生息地の現況** 北太平洋沿岸一帯に分布していたラッコは、18世紀半ば以降の毛皮を目的とした乱獲により生息数が激減、北海道の個体群も一時消滅したと考えられている。戦後初の記録として1973年の浜中町霧多布での観察例があり、1990年代以降、北海道東部沿岸や襟裳岬での目撃や漁網への混獲が増加した。現在は再定着の過程にあると考えられ、襟裳岬や根室半島沿岸で継続して観察される個体がある。一方、北海道東部はラッコ分布域の周辺部に位置することから、繁殖個体群の定着には未だ不安定な状況にあると考えられる。

■**個体数の現況** 1990年代以降、根室半島東端の納沙布岬など北海道東部沿岸の目撃例が増加し、1996年から2001年までに少なくとも4頭が沿岸に来遊した。2003年3月には根室市納沙布岬・落石岬、えりも町襟裳岬で同時期に延べ15頭が観察された。襟裳岬では2002年以降2〜3頭が定着しており、釧路市釧路川河口では2009年2月〜5月初旬に1頭が定着した。2009年5月以降に浜中町沿岸、厚岸町大黒島、根室市納沙布岬、別海町尾岱沼で1〜2頭が継続して観察され、2010年1月には納沙布岬で同時に6頭が観察された。北海道東部沿岸から襟裳岬には現在3〜数頭が定着し、季節的来遊個体を含めて10頭前後が生息していると推測される。北方四島の歯舞群島では、再定着後の1990年代後半から増加し、2001年には44頭が観察されている。ここからの分散個体が北海道東部沿岸へ来遊していると考えられる。

存続を脅かす要因

来遊個体の増加と共に北海道沿岸の定置網や刺網への羅網死が発生している。また、海岸開発（14）や流出する汚染物質が餌資源減少や生息環境悪化を招く可能性がある。とくに油流出による海洋汚染は、体毛の体温維持機能や防水機能を奪うため、甚大な生息被害につながる。

保護対策の現状

1911年にアメリカ・ロシア・イギリス・日本の四ヶ国による国際保護条約が制定された。国際保護条約はその後失効したが、1912年制定の国内法「臘虎臘肭臍（らっこおっとせい）獵獲取締法」によって捕獲が禁止されている。

特記事項

高品質の毛皮採取のため乱獲され、20世紀初めには絶滅近くまで減少した。その後、生息数の回復・再定着が見られる一方、漁業被害も生じ始めている。生息状況調査はほとんど行われていない。

参考文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2005. 日本の哺乳類（改訂版）. 東海大学出版会, 秦野. 206pp.
- Hattori, K., 2009. *Enhydra lutris* (Linnaeus, 1758). In: S. D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh (ed.), *The Wild Mammals of Japan*. pp. 256-257. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
- Hattori, K., I. Kawabe, A. W. Mizuno and N. Ohtaishi, 2005. History and status of sea otters, *Enhydra lutris* along the coast of Hokkaido, Japan. *Mammal Study* 30: 41-51.
- 石川慎也, 2004. 北海道襟裳岬におけるラッコ (*Enhydra lutris*) の生息について. えりも研究, 1: 15-19.
- 環境省自然保護局生物多様性センター（編）, 2003. 海域自然環境保全基礎調査海棲生物調査（鰐脚類及びラッコ生息調査）報告書. 環境省生物多様性センター, 富士吉田. 84pp.
- 小林万里・磯野岳臣・服部薫（編）, 2004. 北海道の海生哺乳類管理. 北の海の動物センター, 札幌. 201pp.
- 近藤憲久・服部薫, 1999. 根室で捕獲された2頭のラッコ. 根室市博物館開設準備室紀要, 13: 71-75.

執筆：中川 元（元 斜里町立知床博物館 館長）